

カルバペネム系抗菌薬の使用量

● 説明

カルバペネム系抗菌薬は、広域(多くの細菌に対して特に幅広い活性を持つ)抗菌薬です。一方、細菌には同じ抗菌薬を使用し続けると効かなくなる性質(耐性)があります。そのため、カルバペネム系抗菌薬を必要以上に使用し続けると、抗菌薬が効かない耐性菌が増え、感染症治療が困難になります。カルバペネム系抗菌薬を必要な場合に限定して適切に使用し、使用量を不用意に増やさないことが重要です。

● 計算式

$$\text{QI} = \frac{\text{カルバペネム系抗菌薬を使用した患者の延べ日数}}{\text{入院患者の延べ日数}} \times 1000$$

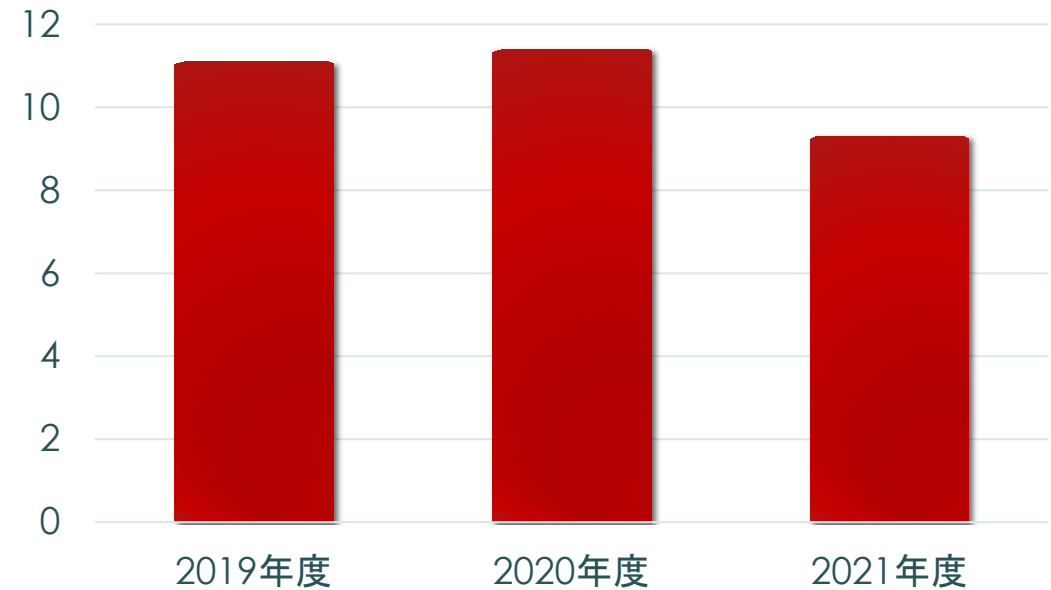
● 目標

当院では、抗菌薬の適正使用を目的に、2010年から抗菌薬投与の是非を検討するカンファレンスを開催しています。医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師が参加し、各診療科とも必要に応じてディスカッションしています。当院のカルバペネム系抗菌薬の使用量は年々減少しており、現状を維持できるよう努めていきます。

● 計画

カンファレンスや症例確認を通じて抗菌薬適正使用に取り組んでまいります。

● 実績



● 評価

広域抗菌薬であるカルバペネム系は、重症患者さんの多い病院ほど使用量は多くなる傾向があります。当院と最も病院機能が近い国公立大学病院での2021年度における使用量[中央値(四分位範囲)]は、29.1(22.1-36.3)であり、当院の使用量は9台です。当院ではカルバペネム系抗菌薬が適切に使用されていることが示唆されます。